

## 「材料技術戦略論」レポートについて（平成 25 年度秋学期）

2014 年 1 月 22 日

鈴木 義和

12 月 28 日および 1 月 15 日の回で予告したとおり、レポートのテーマは、「技術ロードマップ」・「技術マップ」です。1 月 29 日の最終回ではグループでの自由検討を行ってもらう予定ですが、**レポートは各個人が提出してください。**

- ・ ディスカッションを行ったグループ内で、ある程度似た内容になること自体は問題ありません。ただし、レポートの詳細部分については、個人レベルで十分検討してください。
- ・ グループでディスカッションする場合は、できるだけ他のラボの学生と行うようにしてください。異なる価値観を盛り込むためです。
- ・ 何らかの理由で、グループによる自由検討を盛り込めなかった場合（別のテーマについて書きたくなった、何らかの事情で休んだ など）、自分にできる範囲で多角的な検討を盛り込むよう努めてください。
- ・ 標準的なフォント(10.5 ポイント推奨)、標準的な行間を用いて、A4用紙3～5ページ。(図表含む。3ページ目が半分以下の場合は、基準未滿と判定します)

テーマ1あるいはテーマ2に沿ってレポートを書き上げてください。

### テーマ1

これまでに授業で取り上げた、種々の「技術ロードマップ」(横軸が時間軸のもの)を更新する。具体的には、既に発表されている期間よりも10年～30年程度先まで、現在の技術の進歩などを十分に考慮して書き加える。さらに、必要に応じて、既存のロードマップの一部に修正を加える。  
授業で取り上げたもの以外のロードマップを扱っても構いませんが、**必ず出典を明記するようにしてください。**

### テーマ2

興味ある分野の技術マップを新しく書き上げてみる。自身の研究分野でも構わないが、あまり狭い内容になりすぎないように注意すること。「横軸と縦軸の2軸で整理したもの」で十分ですが、さらに一歩すすんで、○印の大小等で具体的な数値を盛り込んだ「擬似3次元マップ」なども推奨。

余白部に「材料技術戦略論レポート」と記載。独自のレポート課題、学籍番号、所属・学年、氏名を明記すること

採点基準	配点
基準点 テーマに沿って、締切を守って提出された <b>標準的な</b> レポート	10点
加点1 グループでの <b>検討経過</b> を明示したもの（発言者の個人名は不要）	10点
加点2 想定する読者にとって、 <b>内容自体</b> が面白い(興味深い)もの	5点
加点3 論理に矛盾がなく、 <b>理路整然</b> としたもの	5点
加点4 文体・レイアウトに統一感があり、原稿としての <b>完成度</b> が高いもの	5点
加点5 <b>客観的・具体的データ</b> (統計データ等)を用いて説得力ある説明を行っているもの	5点
加点6 <b>授業で取り上げた以外の</b> 技術ロードマップ、技術マップを題材としているもの	5点
加点7 既存のロードマップを更新する場合は、 <b>新旧の比較</b> を分かりやすく行ったもの	5点
加点8 参考文献等を <b>正しく引用</b> し、出典を明確にしているもの(脚注あるいは文末脚注として引用。内容が変化する Web ページから引用する場合は、URL に加えて引用日付を明記)	5点
加点9 興味を引く <b>標題(タイトル)</b> をつけているもの。	5点
減点1 正しい引用方法を用いずに、Web 上の記述などを単純にコピー・ペーストしたもの。 (引用部分を明記し、出典を明らかにしたものについては問題なし)	-20点
減点2 大きなフォントや広い行間・マージンを用いて、分量をかさ上げしたと受け取れるもの。 基準未滿あるいは基準を超える分量のもの	-5点
減点3 締切超過	-10点

\* 40点満点。40点を超えるものについては、満点(40点)とします

\* 減点は、40点を上限に加点したのちに行います⇒例：締切超過レポートの上限は30点

提出締切日： 2014年2月5日(水)

今年度については、**卒論・修論の時期を考慮し、修士2年及び4年生は2月10日(月)までは締切超過による減点を免除しますが、それ以降については、-10とします。**

TWINS 成績入力締切以降提出のものは残念ながら採点対象外になります。

提出先： 3F500 物性・分子工学専攻(物質工学域)事務室 鈴木義和メールボックス